

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年1月8日
タイトル	第1回ふるさと未来交流会が開催されました！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年12月16日（水）福山市立新涯小学校で、福山市立誠之中学校の校区の小中学校4校が、「第1回ふるさと未来交流会」を開催され、新涯小学校5年生が「くわいの栽培」といった農業体験を通じて水土里ネット福山と交流があったためお招きいただき、取材しました。



「第1回ふるさと未来交流会」は、新涯小学校5年生136名、曙小学校5年生66名、箕島小学校5年生22名、誠之中学校2年生10名の児童・生徒による発表と各校の代表者によるパネルディスカッションがありました。

誠之中学校の生徒による司会で始まりました。各校の発表では、新涯小学校5年生が一番に発表しました。

青とピンクのうちわを持って、くわい音頭を踊りながらステージの前に出てきて、華やかにスタートしました。新涯小学校5年生は、「くわい」の栽培等の農業体験をしたことを発表しました。「くわい」を通じてふるさとの農業に興味を持ち、誇りを感じ、守っていききたいと思うようになったことを元気よく発表しました。くわい料理の紹介のところで、子ども達が調理実習で実際に作った料理を地域の方に振舞われ「この料理は初めて食べるけどおいしい。」と言って食べておられました。



特に印象に残ったところは、くわい音頭の歌詞に新涯町には「みどりの宝」があり、それは「くわい」をはじめとした農作物であることや、農業体験をして「土の匂いやぬるぬるした感触を忘れない」という部分でした。実際に体験することでしか得られない感想だと思いました。

調理実習では、くわい料理を4種類作り人気投票をしてグランプリを開催しクワイトーストが一位に輝きました。

つぎに、箕島小学校5年生が環境について学習したことを発表しました。箕島小学校のある箕島町が地球温暖化により将来水没するかもしれないと聞き、農業が盛んで自然環境に良いふるさとを守りたいと考え、電気の消費量を減らすことで二酸化炭素の発生を減らすことに取り組みました。テレビを1時間消すと500mlのペットボトル8本分の二酸化炭素が削減できるそうで、全校生徒で取り組みをしたそうです。



二酸化炭素の削減量をペットボトルで例えられていて分かりやすかったです。
学区内の清掃を町内全体で行い、公民館の協力を得て空き缶をリサイクルし、みんなで環境を考えるきっかけとなったそうです。



曙小学校は、くわいの農業体験について発表しました。曙町のくわい畑は1haほどしか残っていないそうです。くわい出荷組合の坂本副組合長の協力で、くわい農家の守屋さんの指導を受けて、学校の校庭で「くわい」の栽培をしたそうです。「くわい」の生産について今後の課題や素晴らしいところを考え、学習した内容を「くわいブック」にして公民館に置いてもらい、「くわい」をアピールしていく予定だそうです。特に印象に残ったところは、「くわい」の生産の素晴らしいところとして、農家の方の工夫により「くわい」のとれ高と売上げが上がっていることや、人々の情熱と協力をあげていたところです。実際に生産者や農協の方と接して直に感じたことで、やはり体験することでしか得られない感想だと思いました。



新涯小学校と曙小学校は、ともに「くわい」についての発表でしたが、それぞれ取り組みに違いがあり、興味深く発表を聞きました。
新涯小学校は、子ども達が考えた料理が素晴らしかったです。曙小学校は、くわい栽培についての分析が素晴らしいと思いました。

最後は、誠之中学校2年生により8月に行われた「チャレンジウィークふくやま」の職場体験についての発表でした。誠之中学校の校区で多くの職場で体験をし、自分達が住んでいる地域が活気あふれる街であることを実感したようです。この体験学習を通じて「保護者への感謝の気持ち」「ありがとうのパワー」を感じたようで、それにより、勉強や部活動を今まで以上に頑張っており、自分達の夢の実現を目指していこうと考えたそうです。

特に印象に残ったところは、この学習を通じてふるさとの魅力を再発見したこと、ふるさとを支えている大人に接し、自分達もふるさとに貢献できる人になりたいと思ったということです。子ども達の感受性にびっくりしたと同時に、大人がひとり一人、子ども達の手本となるよう行動しなければならないと感じました。



各校の発表の後15分の休憩があり、子ども達の代表にインタビューの時間が設けられました。曙小学校のパネルディスカッションのパネラーを務める井村健太郎さんと藤井ひかるさんにインタビューしました。

発表の感想を聞くと二人とも「他の学校の人にも伝わるように発表した。」と答えてくれました。「大きな声で、身振り手振りも上手でとてもわかりやすかったよ。」と言うと二人ともはにかんだようににっこり笑ってくれました。

くわいの農業体験は、井村くんは「くわい植付けの時、くわいを真っ直ぐ植えるのが難しかった。」

藤井さんは「田んぼの土がドロドロして足がぬげなくなった。収穫の時は、学校のミニ田んぼの端っこにくわいが多くあって不思議だった。」と教えてくれました。

収穫した「くわい」は、冬休みに各自が持ち帰り家庭で調理して食べる予定だそうです。二人とも「早く食べたい。冬休みが待ち遠しい。」と話してくれました。

パネルディスカッションは、誠之中学校生徒による司会で小学校から2人ずつ、誠之中学校から1人がパネラーとなり始まりました。最初にそれぞれ、他の学校に発表の感想をいいました。

新涯小学校は、箕島小学校のクリーン作戦をあげ、ゴミの中にたばこの吸い殻が多いことにびっくりしたと言っていました。箕島小学校は、曙小学校の農業体験について農家の方の土づくりが大切なことと、生産量は減っても売上げが増えていることに驚いたそうです。曙小学校は、誠之中学校の職場体験について、職場体験で感じたことなどを聞き、自分では考えられない事を考える中学生に憧れたようでした。誠之中学校は、新涯小学校のくわい音頭の踊りや大きな声で発表しているところが素晴らしいと思ったそうです。



みんな緊張した面持ちでしたが、パネルディスカッションが始まるとキリリとした表情になり、しっかりと発表していました。

パネルディスカッションは「ふるさとの未来」をテーマに行われました。

箕島小学校

豊かな自然を守りたいが、電気を使わない生活は無理なので、ひとり一人が少しずつ省エネをすることが大事。省エネやクリーン作戦といった清掃、リサイクルを誠之中学校区全体に広げていきたい。

曙小学校

くわい農家の後継ぎが少なく、くわい畑が減少する。日本一を守りたいのでくわいブックを作ってアピールしたい。曙小学校ではクワイチップスしか食べたことがない。新涯小学校はどうやって多くの料理を考えたのか。

新涯小学校

くわいは一株に50個も実がつく、美容と健康にいい食べ物。くわい農家の苦労は大変で日本一を守ってくれてありがとうと言いたい。くわい料理をアピールしたい。

あいさつは、元気・やる気・ハッピーを届ける力がある。してもされても元気になる。

誠之中学校

職場体験では、職場で働く人が輝いていた。ふるさを学び、今度は、小学生がこの中学校で学びたいと思える学校にしたいと思い、勉強や部活動を頑張ろうと思う。

誠之中学校区4校で力を合わせ、ふるさに貢献したい。

最後に、福山市教育委員会の近藤裕弥課長より「この交流会を通じて、ふるさを大切に思ってもらいたい。」と講評されました。

誠之中学校海野隆博校長より終わりの挨拶で、みんなの発表や聞く姿勢が素晴らしかったこと、今日の交流会がリハーサルなしで行われたことが話されました。



温かい講評をいただきました。



見事な発表に誇らしい校長先生です。

それぞれの学校が普段からしっかりと取り組みをしておられ、子ども達に無限の力があると思える、素晴らしい交流会でした。

「第1回ふるさと未来交流会」取材して、農業体験や職場体験といった人とのふれあい、直に物にふれることが子ども達に大きな影響を与えることを実感しました。

新涯小学校の農業体験取材し、子ども達の様々な表情や思いに接することができ、レポーターの私自身が現場でしか分からない体験ができたと思います。

今回の「第1回ふるさと未来交流会」で感じた子ども達の純粋な思いを心にとめ、これからも水土里ネット福山は、21世紀土地改良創造運動を通じて、農業のみならず地域振興に貢献したいと思います。